

令鬪之見禿鷄勝亦拔刀而殺天皇聞是語遣物部兵士三十人誅殺前津屋并族七十人

○按ズルニ、鬪鷄ノ事ハ、遊戲部物合篇ニ詳ナリ。

〔萬葉集十九〕三日〇三年正月天平勝寶會集介中内藏忌寸繩麻呂之館宴樂○中于是諸人酒酣更深鷄鳴、

因此主人内藏伊美吉繩麻呂作歌一首、

打羽振雞者鳴等母如此許零敷雪爾君伊麻左米也母、

守大伴宿禰家持和歌一首

鳴雞者彌及鳴杼落雪之千重爾積許曾吾等立可氏禰、

〔枕草子〕頭弁の玄きにまいり給ひて、物がたりなど玄給ふに、夜いとふけぬ、あす御ものいみなるにこもるべければ、うしになりなばあしかりなんとてまいり給ひぬ、つとめて藏人所のかうやがみひきかさねて、後のあしたはのこりおほかる心ちなんする、夜をとをして昔物語もきこえあかさんとせしを、とりのこゑにもよほされてといといみじうきよげに、うらうへに事おほくかき給へるいとめでたし、御かへりにいと夜ふかく侍ける鳥のこゑは、もうさうくんのにやときこえたれば、たちかへりまうさうくんのにはとりは、かんこくくはんをひらきて、三千のかくわづかにされりといふは、あふさかのせきの事なりとあれば、

夜をこめて鳥のそらねははかるとも世にあふさかのせきはゆるさじ、心かしこさせきもり侍るめりときこゆ、たちかへり、

あふさかは人こえやすき關なれば鳥もなかねどあけてまつとか、とありし文どもをはじめのは僧都のきみのぬかをさへつきてとり給ひてき、のちくのは御まへにて、さてあふさかのうたはよみへされて、返しもせず成にたる、いとわろしとわらはせ給ふ、

〔枕草子十二〕大納言殿伊周まいり給ひて、ふみの事などそうし給ふに、例の夜いたうふけぬれ